

駒沢女子大学 「人間総合学群 観光文化学類」を
「観光文化学部 観光文化学科」へ名称変更する事由及び時期を記載した書類

1. 変更の事由

人間総合学群は、平成 30（2018）年、教養教育科目の学修を通して人間に対する理解を深め、人間の諸活動に関わる基礎的、総合的な教養力を身に付けるとともに、社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力、文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を備えた、人間性豊かな人材を育成すべく、旧人文学部を改組したものである。

このような設置目的は、人間総合学群の開設年と同年にまとめられた中央教育審議会「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（中教審第 211 号）における意見、すなわち領域横断的な知識や技能を身に付け、社会的課題の発見と解決に向けた学問の成果と社会実装の推進基盤を築いていく必要性という指摘、あるいは Society 5.0（内閣府）において描かれた未来社会の実現に寄与する人材育成の提言と軌を一にするものであり、本学なりの先駆的な教育改革への姿勢を示すものであったといえる。

しかしながら、人間総合学群の設置から 6 年が経過し、当初の設置目的に照らして検証を行った結果、本学の学群・学類制においてはその組織構造の複雑さとそれゆえの全体像の把握のしにくさが、涵養する学士力のイメージを不明瞭にし、目指す教育が受験生等に十分に伝わっていないと判断するに至った。

以上を背景として、令和 7（2025）年 4 月、高等教育をめぐる今日的なニーズや状況の変化に呼応し、本学の教育システムの明確化と教育内容の一層の充実をはかるために現行の学群制度の廃止を決定した。具体的には人間総合学群を「共創文化学部」および「空間デザイン学部」へと改組し、同学群を構成していた 4 つの学類（人間文化、観光文化、心理、住空間デザイン）のそれぞれの学びの特徴を改めて精査して学部学科組織の見直しを行うことにしたのである。これにより、人間文化学類は共創文化学部の「国際日本学科」と「人間関係学科」として、心理学類は同学部「心理学科」として、そして住空間デザイン学類は「空間デザイン学部 空間デザイン学科」として改組、届出設置を行うことになった。

この結果、人間総合学群に属するのは観光文化学類の 1 学類のみになるが、当該学類は従来から「文化としての観光」に関する教育研究という人文科学の一領域を担う特色ある教育プログラムを中核とする一方、旅行業をはじめとする観光に関わる実務家の養成にも対応した幅広いカリキュラムを展開してきた。実際、本学の所在地域の観光資源の新規開拓やその歴史、およびそれらの広報活動等を通して、地域社会との協働による新たな価値の創成に寄与したり、ホスピタリティ産業との連携によって実践的な学びの機会を数多く提供したりする等、未来社会における有用な人材育成のビジョンに合致した教育研究活動を行い、一

定の成果を収めてきた。

そこで、今回の人間総合学群の改組においては、観光文化学類は教育課程等を従来通りに維持する一方、学部学科の教育方針及び内容をより明確に発信し、涵養する学士力のイメージを確たるものとして伝えるために、「観光文化学部 観光文化学科」へと名称変更を行うことにした。これにより、当該学類がこれまでに収めてきた成果を新たな学部組織においても継承し、それらを基盤としてさらなる発展を目指すという姿勢を社会に訴えることが可能になるものと考えられる。

なお、教養教育科目については、前述した届出設置予定の共創文化学部の教育課程と共通のため一部に変更が生じる部分がある。一方、名称変更後の専門教育科目、学部の目的や養成する人材像、授与する学位分野等については変更がない。

この度の学部学科名称の変更は、名称変更前の入学時の学則に定められた学部学科名称で卒業希望する学生に配慮し、名称変更以降に入学する学生から適用することとしたい。

〈変更の内容〉

(現在の名称)

(変更後の名称)

人間総合学群

→

観光文化学部

人間文化学類

→

学生募集停止

観光文化学類

→

観光文化学科

心理学類

→

学生募集停止

住空間デザイン学類

→

学生募集停止

2. 変更の時期

令和7年4月1日

〈新名称の対象年次〉

第1年次

以上